

事例研究

牛山 佳奈

東芝ソリューション株式会社

IT技術研究所 研究開発部 システム開発・構築技術ラボラトリー

社内システム開発標準の開発におけるテンプレート開発作業の効率化と高品質化

講演概要

ソフトウェア開発ベンダーにおいて、システム開発標準により、システム構築の手順や作法を標準化することは一般的である。最近では、REBOKやBABOK、IPAの機能要件の合意形成ガイド、非機能要求グレードなど、上流にフォーカスした各種標準が提供されるなど、システム開発標準は充実してきている。

著者の所属する組織においては、プロセス、テンプレート、ガイドから構成されるシステム開発標準を定義している。これらは、会社の戦略、組織、技術の変化に伴い、継続的改善が必要である。今回、リリースされた各種標準や、社内ノウハウを加味して開発標準の改善に取り組み、特に開発成果物を定義するためのテンプレートを開発・改善した。

しかしながら、テンプレートの開発・改善において、次のような課題に直面した。

- (1)テンプレートの開発手順が非効率で遅れが発生。
- (2)テンプレートに記述する項目の定義漏れが発生し、テンプレートの品質が低下。

そこで、上記課題の解決のために、(1)の課題の解決策として、テンプレートのフォーマット定義とグループ化によりテンプレート開発の作業を共通化することとした。(2)の課題の解決策としては、メタモデル（※1）を軸として、既存のシステム開発標準テンプレートや、仕様書作成支援ツールの仕様データで定義された項目と対応関係を取ることにした。(1)、(2)の解決策に基づき、テンプレート開発の効率化と高品質化を目指した。

上述した解決策をテンプレート開発・改善に適用した。本解決策の適用後、1テンプレートあたりの開発の生産性が3.2倍に向上した。また、開発した1テンプレートあたりの指摘件数も約6割減少した。このことから、考案した手法はテンプレート開発の効率化と高品質化に有効であると考えられる。この手法は、テンプレートの説明コメントや事例作成作業に対しても適用できると考えられ、継続的に改善していく。

（※1）「メタモデル」とは、要件定義書や基本設計書などの仕様書をモデルとビューに分け、モデルの構造を一般化したものである。